

互学互教のもと地域への貢献を目指して

長谷川秀夫

1964 年に職を得て以来、別添1にあるように職業人として社会で活動をしてきた。それが、2011 年に知の市場を知る機会を得て、別添2に示すように、先ずは受講者として知の市場に参画し、次に講師として知の市場に参画してきた。それが契機となり、今、新たな地域活動を展開している。その経緯と現状、その時々を思いなどを記したい。

1. 知の市場への参画

(1) 受講者としての参画

地域産業の「ものづくり」に関する支援・育成の基盤づくりを目指し、狭山市及び狭山商工会議所の助成を受けて 36 年間、発明工夫等アイデアに関心を持つ同士の研究機関で進んで地域社会の水準を高め産業文化の発展に寄与することを目的とする「狭山市アイデアクラブ」の活動を進めてきたが、その終了と併行して「知の市場;狭山を学ぶ 産業編」が開講されたことが受講のきっかけとなった。

(2) 講師としての参画

(2-1) 狭山を学ぶ ものづくり編a

狭山市は、2カ所の工業団地を有し、その製造品出荷額は埼玉県内で上位にある。最初の「知の市場;狭山を学ぶ 産業編」を聴講し、種々の企業が存在することを知った。過去の開発・研究に携わった職歴から、異業種における「ものづくりにおける ものの見方・考え方」に注目し、互学互教の場として聴講生と同時に講師として参画した。講師としてレポートの提出を受けた受講者には全員コメントを返信した。それは講座の基盤となる「ものの見方・考え方」にある中で、実施した各講座に対して提出されたレポートから各自注目している視点が異なっていることに多くの学ぶべきことを教わった。

知の市場の講座を通して異業種間の交流を目指したい。

(2-2) 狭山を学ぶ 企業編 b

狭山市の代表的な地域産業はお茶に関わる産業である。過去に食品・医薬品に携わってきた職歴及び日本食品標準成分表基礎データの作成や食薬区分の規制に関するミネラル検討並びに日本人の食事摂取基準の策定に携わってきた職務歴、そしてお茶の成分・組成の研究・開発から生まれたMRI用造影剤を医薬品化した経験を活かし、講義内容を「ものづくり」から「健康づくり」に発展させて、講義名「お茶から始まる和食の文化と健康づくり」の講座を担当した。

“お茶”などの飲料や食品と健康とは切り離せない関係にあるので、ものづくりを通じて健康への「ものの見方・考え方」について、知の市場を通じて互学互教と同時に実施することを目指したい。

2. 地域貢献を目指してー さやまビリヤード愛好会の活動

2012 年度開講科目「狭山を学ぶ ものづくり編a」の受講がきっかけとなり、狭山市における様々な地域貢献活動が派生した。その主体となっているのは、「さやまビリヤード愛好会」である。この愛好会が目指すのは、会員自らの成長と健康維持が社会貢献にもなる場の提供である。

さやまビリヤード愛好会を立ち上げたのは、さやま市民大学(旧元気大学)が主催した「ビリヤード指導者養成コース」を修了した第1期生である。当初はビリヤードを通じた住民の交流を促し、地域貢献することを目的として設立した。講座は知の市場主催の科目「狭山を学ぶ ものづくり編a」に発展的に引き継がれたが、その修了者たちもさやまビリヤード愛好会の活動主旨に賛同し、順次会員として加わった。現在の会員数は28名である。

さやまビリヤード愛好会の活動は、狭山市内にある空き店舗などビリヤードが体験できる場所を確保し、非営利で子供達にビリヤードの指導をすることからはじまった。さらに、そこで会員が各々の特技を生かして習字やそろばん等の指導も行うようになった。また、ビリヤードに留まらず会員が作成した各種ゲーム機を市内のイベントに提供するなど、活動の領域はどんどん広がっている。

さやまビリヤード愛好会の活動の中でも、特に全国的に注目を集めた事例の一つが「トンネル貫通石」の展示である。トンネル貫通石とは、トンネル掘削時の貫通点で採集された石である。トンネル工事は自然との闘いなど艱難辛苦に耐えて完成されることから、トンネル貫通石は受験などの難関突破にご利益があると珍重されている。さやまビリヤード愛好会の会員の一人がこのトンネル貫通石を収集しており、それらを狭山市内にある徳林寺境内のミュージアムに展示することになった。その広報活動を別の会員が支援した結果、NHKなどのテレビ、ラジオ、新聞に取り上げられることとなった。これによってさらに多くの貫通石が関係者から提供され、250個以上の貫通石が集まった。狭山市は世界に類のない新たなパワースポットとなり、この展示を見るために全国から多くの人々が訪れた。

以上のように、さやまビリヤード愛好会はビリヤードの普及を主軸としつつ、狭山市という地域に根差した様々な活動を行っている。「人はきっかけがあれば必ず成長する」とされていることから、そのきっかけとして、ビリヤードを通じての交流の場を提供する。

また、さやまビリヤード愛好会は地域活動を長く、無理なく、楽しく続けることを重視している。そのために、活動範囲は近隣の自治会単位程度が望ましいと考えている。そうした事情を踏まえ、さらに活動場所の確保や維持のために、現在他の各種ボランティア団体等との協力を模索している。

江戸時代中期の儒学者である細井平洲の言葉に、「学思行あいまって良となす」というものがある。すなわち「学び、考え、実行して初めて学んだことになる」ということである。知の市場の理念である「互学互教」に「互行」を加えた「互学互教＋互行」に向かって、さやまビリヤード愛好会は今後も活動を継続していく。

(別添1)

社会人としての略歴

- 1964 年 日本電子株式会社 磁気研究室入社
- 1971 年 JEOL(U.S.A.) New Jersey Lab.分析機器による応用研究
- 1975 年 明治乳業株式会社入社
 - 食品の物理化学的分析機器による成分分析法の開発・研究
- 1983 年 経腸栄養剤の研究開発及び同医薬品化に関する研究
- 1992 年 MRI医療用診断造影剤の研究開発
- 1994 年 日本食品標準成分表基礎データの作成委員(～1998 年)
- 1995 年 乳児用調製粉乳、栄養食品、ベビーフード、スポーツ栄養食品等の開発研究
- 1997 年 食薬区分の規制に関するミネラル検討会委員(～1999 年)
- 2003 年 日本人の食事摂取基準(2005 年版)策定委員(～2004 年)
- 2006 年～ NPO 法人 分析産業人ネット 検査分析士資格推進委員
 - 特級検査分析士;Science & Technology Adviser
- 2007 年～ スペクトル解析支援センター長 (Science & Technology Adviser)

(別添2)

知の市場への参画の経過

1. 知の市場 受講・修了歴

- 2011年度 YB611a 狭山を学ぶ 産業編1
- 2012年度 YB612a 狭山を学ぶ ものづくり編a
- 2012年度 YB531 狭山を学ぶ 国際石油論
- 2012年度 YB611c 狭山を学ぶ 企業編 c
- 2014年度 YB612b 狭山を学ぶ ものづくり編b

2. 知の市場 講師歴

- 2012年度～2016年度 YB611b 狭山を学ぶ 企業編 b
- 2014年度～2015年度 YB612 b 狭山を学ぶ ものづくり編 b (各年度 1回を担当)

1) 2012年度～2016年度 YB611b 狭山を学ぶ 企業編 b(各年度 1回を担当)

全15回の講義のうち、第1回目の講義を担当した。講義名は「ものづくりにおける物の見方・考え方」とし、国内外の伝統的な文化や生活とその環境から生まれた工夫やアイデアを検証しつつ、伝統的技術と近代的技術の融合がもたらすものの見方や考え方について論じた。

2) 2014年度～2015年度 YB612 b 狭山を学ぶ ものづくり編 b(各年度 1回を担当)

全15回の講義のうち、第1回目の講義を担当した。本講義では、生活を科学的にとらえ、ものの本質・原理・原則を理解し、それらの知識を駆使しながら判断しコーディネートしていく力を養うことを目標とした。

講義名は「お茶から始まる和食の文化と健康づくり」とし、お茶の機能について講義した。日本の伝統的な食文化である和食は、世界の無形遺産として登録申請されるなど再認識されてきた。和食は、四季や地域によって多様な山海の幸を使用した、繊細で世界的に誇れる料理であり、おもてなしの精神も大切にしている。食文化のルーツを知り、科学的見地から食品の機能(人体に対する食品の作用や働き、栄養機能、健康性・生体調整機能、嗜好・食感機能)の内、お茶から始まる和食の色彩・香り・食感を中心に和食のすばらしさと、お茶の存在意義を検証し健康づくりに活用することを論じた。